

Beschränktartig な有理型函数 に就いて

鍋島一郎

① $w(z)$ が $|z| < 1$ で beschränktartig とは

$$w(z) = \frac{f(z)}{g(z)}$$

で、 $f(z), g(z)$ は $|z| < 1$ で正則、且つ $|f(z)| \leq 1$,
 $|g(z)| \leq 1$ とおける事である。

$w(z)$ が $|z| < 1$ で有界な charakteristik T を持てば
 $w(z)$ は、beschränktartig となり、逆に beschränktartig な函数は有限な charakteristik を有する。

以下、かかる函数について、その $f(z), g(z)$ の $z=1$ に於ける角微係数 D_f, D_g の性質、及び $w(z)$ の $z=1$ に於ける角微係数 D を新しく定義してその性質を考える。

② $w(z)$ は $|z| < 1$ で beschränktartig な有理型函数
とする。

$$w(z) = \frac{f(z)}{g(z)}$$

$$f(1) = g(1) = 1 \text{ とし, } D = D_f - D_g$$

を $w(z)$ の $|z|=1$ における角微係数と定義する。

[注意] 特に $w(z)$ が, $|z|<1$ で 正則で, $|w(z)|<1$ の時には,

$$w(z) \equiv f(z), \quad g(z) \equiv 1$$

と考えれば, $D = D_f$ となり, 有界正則函数の角微係数と一致する。

定理

$$w_1(z) = \frac{f_1(z)}{g_1(z)}, \quad w_2(z) = \frac{f_2(z)}{g_2(z)}$$

$$\begin{aligned} f_1(1) &= g_1(1) = 1 \\ f_2(1) &= g_2(1) = 1 \end{aligned}$$

は $|z|<1$ で beschränktartig とし, その角微係数を夫々 D_1, D_2 とし, $|w_1(z)| \leq |w_2(z)|$ とすると,
 $D_1 \geq D_2$

となる。

[証明] $|w_1(z)| \leq |w_2(z)|$

から

$$\left| \frac{f_1(z)}{g_1(z)} \right| \leq \left| f_2(z) \right| \leq 1$$

$f_2(1) = 1$ 故, $D_{f_1}, D_{g_1}, D_{g_2}$ 有限とし

$$\lim_{z \rightarrow 1} \frac{d}{dz} \left(\frac{f_1(z)}{g_1(z)} \right) \geq D_{f_2}$$

即ち

$$\frac{g_2(1)}{g_1(1)} \left\{ D_{f_1} - \frac{f_1(1)}{g_1(1)} D_{g_1} \right\} + \frac{f_1(1)}{g_1(1)} D_{g_2} \geq D_{f_2}$$

故に

$$D_{f_1} - D_{g_1} \geq D_{f_2} - D_{g_2}$$

即ち

$$D_1 \geq D_2$$

[注意] 特に $w_1(z), w_2(z)$ が $|z| < 1$ で正則ならば、

$$g_1(z) \equiv 1, g_2(z) \equiv 1$$

$$\text{で } w_1(z) \equiv f_1(z), w_2(z) \equiv f_2(z)$$

と考え、

$$D_{f_1} \geq D_{f_2}$$

となり Herzog の定理となる。

[定理] 2

$w(z)$ $|z| < 1$ で beschränktartig で $|D| < \infty$ ならば、 $z = 1$ に於ける内接円で、 $w(z)$ がその中で正則で、零点を有しないようなものが存在する。

[証明]

定理 2 から $|D_f - D_g| \leq D_f < \infty, D_g < \infty$

$$\infty > |D| \geq$$

$$\therefore \sum_{n=1}^{\infty} \frac{|1-a_n|^2}{|1-a_n|^2} < \infty, \sum_{n=1}^{\infty} \frac{|1-b_n|^2}{|1-b_n|^2} < \infty.$$

依つて題意の如き内接円が存在する。

③ 次に D_f , D_g の charakteristik T による評價を述べる。

定理 3

$$w(z) = \frac{f(z)}{g(z)} \quad (f(1)=g(1)=1) \text{ は } |z| < 1 \text{ で}$$

beschränktartig とし, $w(0) \neq 0, \neq \infty$ とする。

その charakteristik を T とし, $f(z)$, $g(z)$ の $z=1$ に於ける角微係数を夫々 D_f , D_g とすると

$$D_f \geq \frac{e^T - |c_m|}{e^T + |c_m|}$$

$$D_g \geq \frac{e^T - 1}{e^T + 1}$$

但し, c_{-m} は, $w(z)$ の 0 の近傍に於ける Laurent 展開の最初の 0 でない係數とする。

ここで等号は

$$f(z) = \frac{z + |c_{-m}| e^{-T}}{1 + |c_{-m}| e^{-T} z}$$

$$g(z) = \frac{z + e^{-T}}{1 + e^{-T} z}$$

12 限る。

[証明] $h(z) = z g(z)$

とおくと, $h(z)$ は $|z| < 1$ で正則で

$$|h(z)| < 1, \quad h(0) = 0$$

$$h'(z) = g(z) + zg'(z)$$

$h(z)$ の $z=1$ における角微係数を D_0 とすると,

$$D_0 = g(1) + D_g = 1 + D_g$$

$$\text{又}, \quad h'(0) = g(0)$$

故に, Unikelbach の定理⁽²⁾による

$$D_0 \geq \frac{2}{1 + |h(0)|} \quad \text{--- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- ---} \quad (1)$$

即ち,

$$1 + D_g \geq \frac{2}{1 + |g(0)|} \quad \text{--- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- ---} \quad (2)$$

然るに

$$T \leq \log \left| \frac{1}{g(0)} \right| \quad \text{--- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- --- ---} \quad (3)$$

$$\therefore |g(0)| \leq e^{-T}$$

依つて (2) から

$$1 + D_g \geq \frac{2}{1 + e^{-T}}$$

$$\therefore D_g \geq \frac{2}{1 + e^{-T}} - 1 = \frac{e^T - 1}{e^T + 1}$$

となる。

次に $\frac{1}{\omega(z)} = \frac{g(z)}{f(z)}$ を考えると ; 之の charakteristi-

tik は $T - \log |\omega_m|$ であるから ; 上と同様にして

(2) 小松勇作・等角寫像論 P. 425

(3) Niemann. Eindeutige Analytischen Funktionen
P. 179.
(395)

$$D_f \geq \frac{e^{T - \log |c_m|} - 1}{e^{T + \log |c_m|} + 1}$$

即ち

$$D_f \geq \frac{e^T - |c_m|}{e^T + |c_m|}$$

となる。

D_g の等号は ①, ③ で等号が成立するを要する。

① で、等号が成立するのは

$$h(z) = z \frac{z + |h'(0)|}{|h'(0)|z + 1}$$

即ち、

$$z g(z) = z \frac{z + |g(0)|}{|g(0)|z + 1}.$$

$$\therefore g(z) = \frac{z + |g(0)|}{|g(0)|z + 1}$$

12限り、③ で等号が成立する故

$$T = \log \left| \frac{1}{g(0)} \right| \quad \therefore |g(0)| = e^{-T}$$

故12.

$$g(z) = \frac{z + e^{-T}}{1 + e^{-T}z} \quad \text{12限る。}$$

同様に D_f の等号は

$$\begin{aligned} f(z) &= \frac{z + e^{-T + \log |c_m|}}{1 + e^{-T + \log |c_m|}z} \\ &= \frac{z + |c_m| e^{-T}}{1 + |c_m| e^{-T}z} \end{aligned}$$

12限る。

(証 終)

(370)

定理 4.

$$w_1(z) = \frac{f_1(z)}{g_1(z)}, w_2(z) = \frac{f_2(z)}{g_2(z)}$$

beschränktartig とし、

$$f_1(1) = g_1(1) = 1, f_2(1) = g_2(1) = 1,$$

$$|w_1(z)| \leq |w_2(z)|$$

とし、 $w_1(z)$, $w_2(z)$ の charakteristik を夫々 T_1 , T_2 とし、0の近傍に於ける Laurent 展開の最初の 0 でない係数を夫々 C_1 , C_2 とすると、

$$D_{f_1} + D_{g_2} \geq \max \left\{ \frac{e^{T_2} - |C_2|}{e^{T_1} + |C_2|} + \frac{e^{T_1} - 1}{e^{T_1} + 1}; \frac{e^{T_1} - |C_1|}{e^{T_2} + |C_1|} + \frac{e^{T_2} - 1}{e^{T_2} + 1} \right\}$$

[証明] 定理 1.12 より $D_{f_1} - D_{g_1} \geq D_{f_2} - D_{g_2}$

$$\therefore D_{f_1} + D_{g_2} \geq D_{f_2} + D_{g_1}$$

これに定理 3 の評價を用ひればよい。

定理 5.

$$w(z) = \frac{f(z)}{g(z)} \quad |z| < 1 \text{ で } \text{beschränktartig} \text{ とし、その}$$

境界点の各近傍で $|w(z)| \leq 1$ とし、 $w(z)$ は n 個の零点 $\{a_{nv}\}$, m 個の極 $\{b_m\}$ を有するとする。

$$f(1) = g(1) = 1 \text{ とすると}$$

$$D \geq \sum_{v=1}^n \frac{1 - |a_v|^2}{|1 - a_v|^2} - \sum_{m=1}^m \frac{1 - |b_m|^2}{|1 - b_m|^2}$$

となる。

[証明]

$$\varphi_1(z) = \prod_{v=1}^n \frac{1-\bar{a}_v}{1-a_v} \frac{z-a_v}{1-\bar{a}_v z}, \quad \varphi_2(z) = \prod_{m=1}^m \frac{1-\bar{b}_m}{1-b_m} \frac{z-b_m}{1-\bar{b}_m z}$$

とおくと、

$$W(z) = w(z) \frac{\varphi_2(z)}{\varphi_1(z)} \text{ は } |z| < 1 \text{ で正則で}$$

$$|W(z)| \leq 1 \text{ となる。}$$

$$\therefore |w(z)| \leq \left| \frac{\varphi_2(z)}{\varphi_1(z)} \right|$$

$\varphi_1(1) = \varphi_2(1) = 1$ であるから、定理 12 より

$$D \geq D_{\varphi_1} - D_{\varphi_2} = \sum_{v=1}^n \frac{1-|a_v|^2}{|1-a_v|^2} - \sum_{m=1}^m \frac{1-|b_m|^2}{|1-b_m|^2}$$

となる。

(証終)